

科目「課題研究」における効果的な指導方法について

－言語活動に重点を置いた展開方法－

千葉県立〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (農業)

1 はじめに

高等学校学習指導要領における科目「課題研究」の目標は、「農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。」である。平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領において、「言語活動の充実」、「成果の整理」、「発表」を通して、思考力・判断力・表現力等を育むことが求められている。また、千葉県教育委員会「学校教育指導の指針」の中では、「自ら学び、思考し、表現する力」の育成、言語活動と体験活動の充実等が挙げられている。

これらを踏まえ、科目「課題研究」の展開においては、各科目で学習した基礎的・基本的な内容を再確認させ、生徒が自ら考え判断する力を伸ばし、学習意欲が高まるような内容が求められている。

本校生産技術科の教育課程では、科目「課題研究」を2年次に1単位履修したのち、3年次で2単位履修し、同学年で選択農業科目（実習）と連動させ、2クラスを8つの少人数班編成として展開している。内容はプロジェクト学習法による調査、研究、実験等を展開し一定の成果を上げてきた。

そこで、平成25年度からの新教育課程の実施にあたり、科目「課題研究」の指導計画および指導方法について見直し、学校農業クラブ活動（プロジェクト学習）を軸とした課題研究の実践を通して、言語活動をより充実させた学習指導と学習教材について研究することを目的とした。

2 研究方法

生産技術科では2、3年次に「野菜」、「草花」、「果樹」、「食品製造」、「作物」の5科目のうち1科目を選択させ、少人数で実習展開することで着実な知識・技術の習得を図っている。課題研究については、上記選択者をさらに2分割し、選択科目の学習内容を生かしたプロジェクト学習を展開している。本研究では選択科目で「野菜」を選択した3年生を対象に調査、研究を進めることとした。

表1 平成25年度教育課程（生産技術科）における課題研究の位置付け

| 科目 | 学年 | 単位数 | 内容 | 展開方法 |
|------|-----|-----|------------------------|-----------|
| 課題研究 | 2年次 | 1単位 | 資格取得に関するテーマ | クラス単位 |
| | 3年次 | 2単位 | 選択科目の学習内容を生かしたプロジェクト学習 | 10名程度の少人数 |

- (1) 学習者の実態調査と分析
- (2) 研究計画作成（プロジェクト学習の支援・指導方法の検討）
- (3) 指導効果の検証・考察
- (4) 研究のまとめ

3 学習者の実態調査

(1) 生徒への意識調査（平成24・25年度：5月に実施 選択科目「野菜」選択者12名

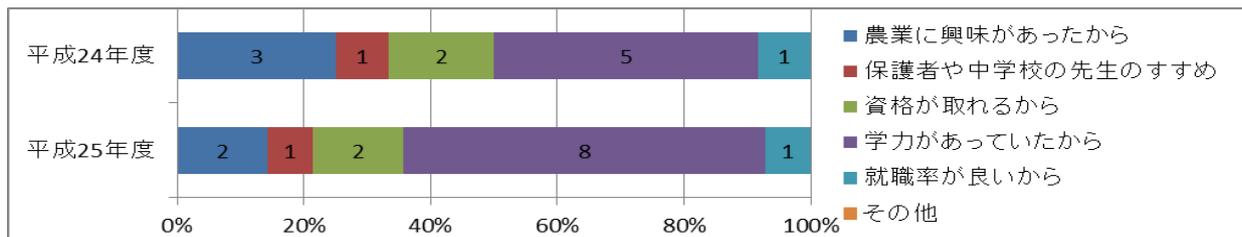


図1 生産技術科に入学した理由

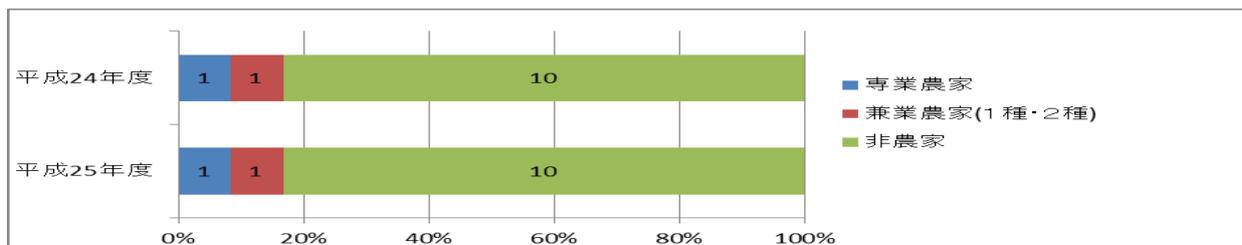


図2 農業を営んでいるか

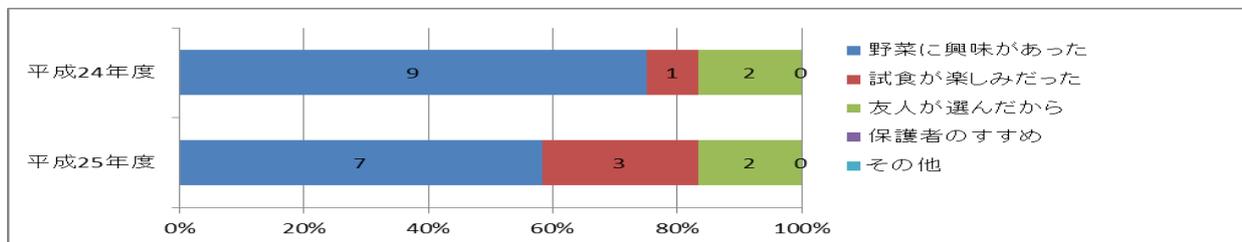


図3 選択科目「野菜」を選択した理由

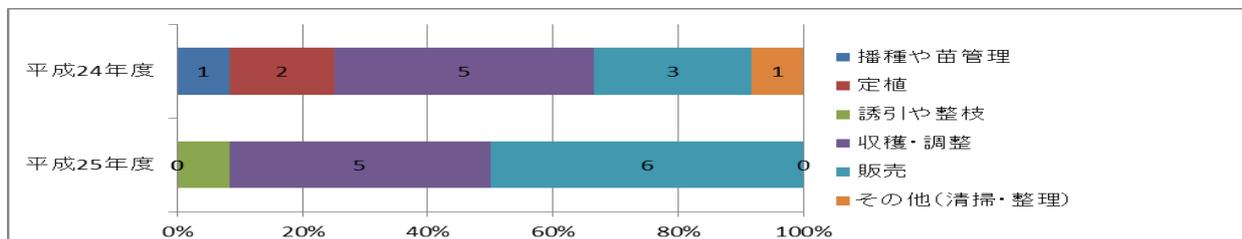


図4 実習内容で好きな内容

研究対象とした生徒が本校生産技術科に入学した理由は、「学力があっていたから」が最も多く、非農家の割合も高い。また、農業後継に関する理由でないことが分かる。(図1・2)しかし、「農業に興味があった」、「資格が取れる」等の専門高校の持つ魅力に惹かれた面も高いことが分かる。

専門選択科目で「野菜」を選んだ理由としては、「野菜に興味があった」がもっとも多く、「収穫・調整」、「販売」等の収穫の喜びを感じられる実習内容が興味を引いている。(図3・4)

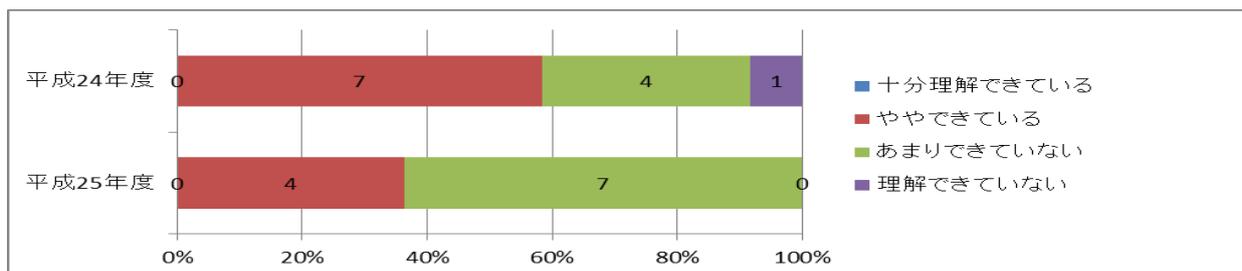


図5 専門科目の授業は理解できているか

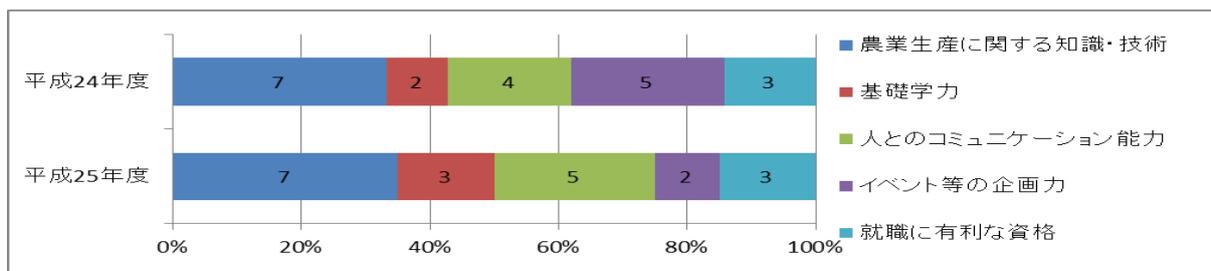


図6 Q5で「理解できていない」と回答した理由

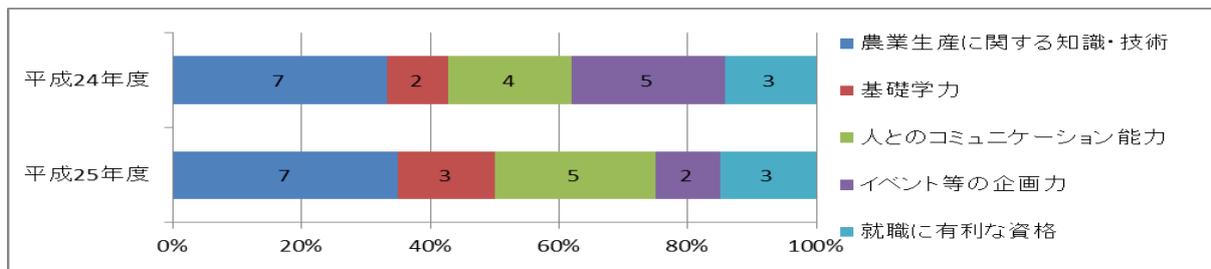


図7 学習内容で特に身につけたい内容（複数回答可）

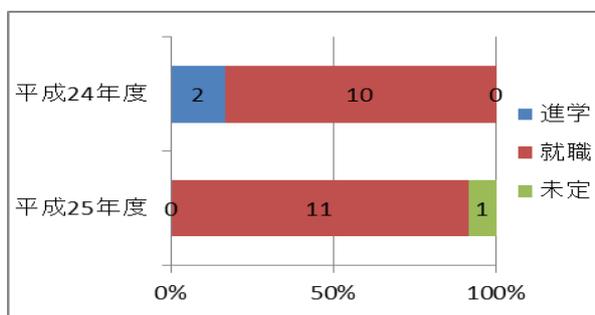


図8 卒業後の進路希望

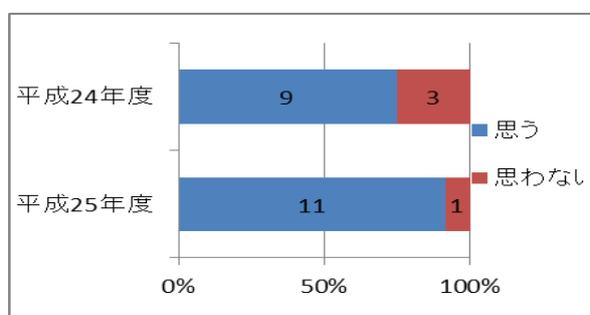


図9 イベントや交流事業に参加したいか

授業内容の理解度については、「理解できていない」、「あまり理解できていない」が全体の60%を超えており、生徒の学力不足を理由にせず、分かる授業を展開していく努力が必要である。（図5・6）身につけたい内容では、全体の60%以上が「コミュニケーション能力」、「企画力」、「資格」等の就業に直結する能力を身につけたいと考えている。また、卒業後の進路を全体の80%が就職希望であり、「未定」が非常に少なかった。3年生ということもあり、進路決定にむけての意識が高いことがわかる。（図7・8・9）

以上のことから、科目「課題研究」の展開においては

- 野菜栽培に関する基礎・基本的な内容
- 結果が理解しやすい比較実験
- 地域イベントや連携事業等の人と接する機会を活用した実践的な内容

が生徒の実態に合った効果的な内容であると考えた。

4 研究計画

生産技術科課題研究班（野菜A班）が実施した次のようなプロジェクト学習への支援・指導において、（1）～（4）に挙げた項目を軸として進めるようにした。各年度の発表・まとめの段階で生徒にアンケート調査を行い、実践・支援指導方法についてその効果の検証を行った。

(1) 生徒の研究テーマ

| |
|--|
| <p>研究テーマ「〇〇高校ブランド野菜の生産」</p> <p>平成22年度 「ちばエコ農産物認証トマトの栽培」</p> <p>平成23年度 「緑肥によるセンチュウ抑制効果の検証と減農薬の取組」</p> <p>〇平成24年度 「緑肥によるセンチュウ抑制と千葉県育成品種の栽培」</p> <p>〇平成25年度 「千葉県育成品種の栽培と宣伝活動」</p> <p>(1) 栽培技術に関する実験</p> <p>(2) 消費者の意識調査（アンケート調査とその手法について）</p> <p>(3) 校内外での研究成果発表とその方法</p> <p>(4) イベントへの参加・宣伝活動とその方法</p> |
|--|

(2) 指導計画

【平成24年度】

| 学期 | 月 | 学習活動 | 〇研究項目・指導事項 |
|--------|-----|---|---|
| 平成30年度 | 1月 | 研究テーマの検討 課題研究発表会参観 上級生の発表評価採点 | 課題研究発表会に参加させ、次年度の研究テーマ決定の参考にさせる。(学科行事) |
| 1学期 | 4月 | 課題の設定 テーマ決定 計画立案 栽培品種及び緑肥品種の選定 調査項目の決定と機器の準備 | 科目の目標を確認させ、計画立案させる。 〇使用圃場面積, 調査株数の適正規模の検討 〇使用施設への掲示物作成指導 |
| | 5月 | 減農薬栽培のための取組 センチュウ抑制緑肥播種 緑肥についての文献収集 センチュウについての文献収集 | 〇学習者の実態調査(アンケート形式) 効果的なICT活用方法の指導(調べ学習) |
| | 6月 | 減農薬の手法についての文献収集 緑肥のすき込みによるセンチュウ防除 | 〇実習記録簿の見直し (自己評価観点・文章作成能力向上) |
| | 7月 | 土壌診断・施肥設計 トマトの播種・育苗 | 土壌診断を活用した施肥設計指導 |
| 2学期 | 8月 | 外部有識者からの評価・指導 本圃の準備(耕運・施肥) | 〇印旛農業事務所からの栽培指導依頼 施設・設備の点検 |
| | 9月 | 生育調査・収穫量調査 病害虫・生理障害観察 トマト栽培計画表示 | 〇交代班長制による展開開始 |
| | 10月 | 生育調査・収穫量調査 アンケート調査の方法・技術検討 千葉県育成品種の宣伝活動① アンケート調査演習① 消費者の嗜好調査① | 〇中学生1日体験入学運営準備 効果的なICT活用方法の指導 (プレゼンテーションソフトの活用) 〇〇〇〇祭り出店手続き 〇ペア学習による聞き取り技術の向上 |
| | 11月 | 販売実習及び聞き取り調査 アンケート調査演習② 消費者の嗜好調査② | 〇文化祭出店手続き 〇ふるさとフェスタさわら出店手続き |
| | 12月 | データ整理 栽培方法や調査項目の検討 有識者の評価と調査結果の考察 | 校内「課題研究集録」の原稿指導 〇栄養士による指導・評価依頼 (給食の食材として) |
| 3学期 | 1月 | 校内課題研究発表会参加・発表 実習記録簿の整理, 自己評価, 反省, 感想 | 効果的なICT活用方法の指導(発表) 〇学習者へのアンケート調査(指導効果) 次年度指導計画作成 |

【平成25年度】

| 学期 | 月 | 学習活動 | ○研究項目・指導事項 |
|---------------|-----|--|--|
| 平成24年度 3学期 | 1月 | ※年度内は2年次科目「総合実習」で指導 研究テーマの検討 課題研究発表会参観 上級生の発表評価採点 | 課題研究発表会に参加させ、次年度の研究テーマ決定の参考にさせる。(学科行事) ○アンケート調査(指導効果) |
| | 2月 | 研究班の編成 課題の設定 テーマ決定 | ○学習者の実態調査(アンケート) 学習目標確認 |
| | 3月 | 計画立案 栽培品種及び緑肥品種の選定 調査項目の決定と機器の準備 | ○使用圃場面積、調査株数の適正規模の検討 |
| 1学期 | 4月 | ペア学習による聞き取り調査演習 班長制による実施方法と役割を学ぶ | ○交代班長制による展開開始 |
| | 5月 | ふるさとまつり出店・聞き取り調査 | 記録簿の整理・考察指導7 |
| | 6月 | 研究のまとめ(中間報告として) | 効果的なICT活用方法の指導(発表技術) |
| | 7月 | 校内農業クラブ研究発表会 千葉県学校農業クラブ研究発表大会出場 | ○学習者へのアンケート調査(指導効果) |
| 2学期 | 8月 | 外部有識者からの評価・指導 | ○印旛農業事務所からの栽培指導依頼 |
| | 9月 | 生育調査・収穫量調査 病害虫・生理障害観察 | |
| | 10月 | 研究のまとめ(本年度分の中間報告として) | ○中学生1日体験入学運営準備 効果的なICT活用方法の指導 (プレゼンテーションソフトの活用) ○成田弦祭り出店手続き |
| | 11月 | 調査結果整理 | 文化祭出店手続き ○ふるさとフェスタさわら出店手続き |
| | 12月 | 栽培方法の再検討と調査項目の再検討 | ○校内「課題研究集録」の原稿指導 |
| 3学期 | 1月 | 校内課題研究発表会参加・発表 実習記録簿の自己評価、反省、感想 | 効果的なICT活用方法の指導(発表) |

5 研究結果

(1) 研究テーマの設定

本科目の支援・指導において難しいことのひとつが「課題設定」であると思われる。「野菜で扱う基礎的・基本的な知識・技能の習得と、これらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等は相互に関連付けさせながら指導する必要がある。生徒の知識・技能の習得状況を踏まえ、生徒の学習到達度にあったテーマにするよう指導することに留意することが大切である。また、栽培経験がなく、知識・技術が未熟な生徒に農業分野に関する課題を設定させることは大変難しく、学校農場施設・設備等の制約、限られた期間の中で計画、実施、考察、発表まで一連の学習活動を行わせる事を考えると、複数年度で継続研究し、発展させられる内容で生徒の興味ある事象や問題に関するテーマとすることが良いと考えた。

課題研究班(野菜A班)では、「○○高校ブランド野菜の生産」を大テーマとして、継続研究している。過去の生徒達はその中で「千産千消をモットーとした消費拡大」、「ちばエコ農産物推進事業への参加」、「規格外生産物の利用」、「省力・減農薬に関する取り組み」等、各年度でテーマを発展させて意欲的に取り組んできている。平成24・25年度についても上記のテーマを継続し、各年度のテーマを設定させた。

(2) 言語活動を充実させる方法

「言語活動の充実」を図るために、研究活動の各場面において、以下のような視点で指導を行った。

- 生徒が自分の言葉で説明したり、相手の立場や考えを尊重し合いながら協力しあって研究を進めるようにする。
- 他者との考えの相違や共通点を意識しながら、生徒一人一人が自分の考えをもてるようにする。
- 集めた情報を整理分析し、理論的にまとめ、相手に伝えられるようにする。
- 発言や文章の内容を理解する力を育成するために、情報収集の能力と文章作成力の向上をはかる。

ア 圃場使用計画

研究を始めるにあたり、生産圃場と研究圃場を区分けし、生徒氏名と研究テーマを記入した看板を設置させた。圃場視察、見学者があった場合は、極力担当生徒に説明させるようにした。これにより生徒の「自分達の研究圃場」という責任感、親近感を高め、授業に対する関心・意欲の向上を図った。また、研究に使用する圃場の使用計画については、昨年度と同様に圃場の半分を使用する様に指導した。研究データの信憑性や発展性を考えると、広い圃場面積、株数で展開したくなるが、教員1名、生徒10名前後の少人数で展開するため、授業内2時限分の時間内に「導入」、「展開」、「まとめ」で構成された一つの授業とすることを考え、ゆとりのある栽培面積と株数で実施させた。これにより調査環境と実習効率の向上を図った。

イ 交代班長制

授業ごとに次の活動までの班長を輪番で選出させた。班長には指導者と事前に打ち合わせを行い、活動時の進行、実習内容の指示、実習分担、班としての反省等を行わせた。これにより教員の指示待ちという場面は少なくなり、班員の状況を把握しながら、相手に伝えるための言葉の構成や話し方等の話す技術を伸ばす事ができる。また、今までに集団のリーダーとしての役割を果たすような経験が極端に少なかった生徒についても、自分から発言して集団を動かすという体験は、発言する勇気と自信をもたせる事ができる。

ウ 記録簿の書式

本校では「課題研究ノート」を作成し、所定の書式のもとで各班が活用し、課題研究の学習活動が計画的に行われ、科目の目標を達成できるようにしてきた。しかし、現在の書式は多種の展開方法に対応できるように、最低限の項目で作成されている。課題研究の展開方法は個人研究から、数人で協力して行う共同研究の形で実施している者がほとんどで、他者と協力し行う実習が増えてきている。その結果、リーダーや発言力の強い者の主導で、個人の学習活動が見えづらくなっている者がいる。また、言語活動の充実を図るためには、まずは自分の意見や感想を適切に文章化させる事が必要であることと考え、従来の書式を変更し、自己評価の観点の文章表現、教員評価の記入方法について検討した。さらに、他の生徒や職員に発表することを前提とした発表用の文章で感想・反省を記入する項を設けた。

表2 生徒が記入する記録簿の様式変更（太字部分が追加した項目）

| 自己評価 | | 教員評価 (◎・○・△) |
|---|--|--------------|
| ① 服装・学習用具・使用器具等の準備が適切だったか。 (A・B・C・D) | | |
| ②計画通りに研究・学習ができたか。 (A・B・C・D) | | |
| ③次の予定計画は理解できているか。 (A・B・C・D) | | |
| ④学習や授業に積極的に集中して取り組んだか。 (A・B・C・D) | | |
| ⑤ 実習記録が丁寧かつ適切に記載されているか。 (A・B・C・D) | | |
| ⑥ 班員と協力して研究を進めたか。 (A・B・C・D) | | |
| ⑦ 班員との相談や連絡で適切に発言できたか。 (A・B・C・D) | | |
| ⑧ 班員の意見や指導者の助言内容を理解できたか。 (A・B・C・D) | | |
| ⑨ 植物の特徴や変化を注意深く観察できたか。 (A・B・C・D) | | |
| 感想・反省 | | |

エ 聞き取りによる消費者の意識調査

(ア) ペア学習による調査技術の向上

聞き取りによる調査を実施するにあたり、事前指導においてペア学習により実際の調査を想定した練習を行った。(図 10) 相互に意見を出しあわせ、話し方、聞き方、態度等について検討を行わせた。(図 11) これにより、初対面の方に自分から声をかける事に抵抗を持っていた生徒にも自信をつけさせ、調査を円滑に行えるようにした。



(イ) 校内での調査実習（対象：職員8名・生徒39名）

試験栽培し収穫したトマトを寮教育の給食の食材として提供し、書き込み方式による試食アンケート調査を行わせた。調査項目考えさせ、回答しやすい、書き込み方式に適した文章と形式を検討させた。



図1-2 寮の給食食材として提供

(ウ) イベント参加における調査実習

地域イベントに参加し、販売実習と並行して聞き取り方式による野菜に関するアンケート調査を行うように指導した。成田弦祭りの調査では、最初の校外調査であったので、回答者が「はい」、「いいえ」で答えられるような質問内容とし、調査実績よりも生徒が自ら初対面の方に声かけができるようになることを目的として実施させた。2回目以降の聞き取り調査にあたっては、生徒の調査技術の進捗を考慮しながら、質問表現を検討して聞き出す内容に変えていった。

a ○○○祭り (参加生徒数：5名 調査数：7名)



図14 販売実習の様子



図15 聞き取り調査

b ○○高校文化祭「○○○祭」(参加生徒数：6名 調査数：12名)



図16 販売実習の様子



図17 聞き取り調査

c ふるさとフェスタさわら (参加生徒数：4名 聞き取り調査数：26名)



図18 販売実習の様子



図19 商品説明する生徒

(3) 結果の整理・発表

ア プレゼンテーションソフトを活用した宣伝活動

(ア) 「中学生一日体験入学」での補助活動

中学生一日体験入学において、研究方法と栽培しているトマトの品種に関する説明を行うように指導した。生徒は調査で撮影した写真、過去のデータやインターネットの情報を活用

しながらスライドを作成した。自分達の研究活動内容である農業分野の経験や知識が少ない相手に対して説明することを想定し、事前に他科目選択生徒に説明を聞いてもらったり、質問を想定するなどの工夫をしながら練習した。当日は中学生に対して、言葉遣いや専門的な言葉を極力使わない等の工夫をしながら収穫実習の補助を行った。



(イ) 課題研究発表会・農業クラブ研究発表大会での発表

学科行事である「課題研究発表会」や千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会において、自分達の取り組みを発表できるように指導した。発表の役割決定に際し、すべての役を全員に行わせ、農業クラブプロジェクト発表評価の観点で相互評価を行わせて役割を分担させた。



イ 商品知識や活動記録の整理

(ア) 商品説明用パネルと研究要旨集の作成

消費者への宣伝と、生徒の商品知識を整理させることを目的として、千葉県で育成されたことや栽培品種の栄養的特性等を個々にまとめさせた。これを数種の紹介パネルとしてまとめ、活動発表や販売時の商品説明に活用させた。また、活動のまとめとして「課題研究集録」を作成させた。作成にあたっては学科で取り組み、全班の発表要旨を掲載させた。



図 2 4 宣伝パネルの作成・活用



図 2 5 課題研究集録より

(イ) 反省会の実施

イベント参加、新しい取り組みを行った毎に反省・協議を行わせ、調査結果の情報分析、自分の意見や他者の意見・感想に対して評価・改善をはかる時間を設けさせた。これにより互いの考えを伝え合い、班としての意見や活動の方向性を協議、発展させた。



ウ 外部機関，有識者による指導・評価

栽培品種「ちばさんさん」について、農業普及指導員に栽培方法の評価、栽培に関する課題についてアドバイスをいただいた。また本校栄養士からは、商品の品質評価と本品種の給食食材としての魅力について指導していただいた。栽培技術や生産物について客観的な評価を受けることで、研究の有用性を認識させ、自信を持たせた。



6 指導効果の検証・考察

(1) 生徒への意識調査

表3 アンケート結果から見る生徒の変化

| 質問事項 (良くてできる: 5 4 3 2 1: 出来ない) | H24 | | H25 | |
|---|-----|------|-----|------|
| | 実施前 | 実施後 | 実施前 | 実施後 |
| ア あなたは自分の意見や感想をまとめることができますか。 | 2.7 | 3.5↑ | 3.2 | 3.2 |
| イ あなたは自分の意見や感想を文章にすることができますか。 | 2.3 | 2.4 | 3.2 | 3.6↑ |
| ウ あなたは文章にした他人の意見や感想を読み取ることができますか。 | 3.8 | 3.7↓ | 3.6 | 3.6 |
| エ あなたは自分の意見や感想を相手に話すことができますか。 | 3.5 | 4.0↑ | 2.4 | 3.2↑ |
| オ あなたは他人の意見や感想を聞き、理解することができますか。 | 3.5 | 3.7 | 3.4 | 3.6 |
| カ あなたは自分の意見や感想を大勢の前で発表することができますか。 | 2.3 | 2.5 | 2.2 | 2.8↑ |
| キ あなたは他人が意見や感想を発表しているのを聞くことができますか。 | 4.5 | 4.5 | 3.8 | 4.0 |
| ク あなたはコンピュータ、携帯電話等の情報通信機器 (ICT) を使えますか。 | 3.2 | 3.2 | 3.4 | 3.6 |
| ケ 学校外イベントに参加したい。した方がよい | 4.2 | 4.8↑ | 4.6 | 4.6 |
| コ 本校の生産物や取り組みについて広めたい。広められた。 | 5.0 | 5.0 | 3.8 | 4.0 |
| サ お客様とのコミュニケーションがうまくできる。できた。 | 2.7 | 3.6↑ | 3.0 | 3.2 |
| シ 接客態度や身だしなみが気になる。適切であった。 | 4.0 | 4.2 | 2.8 | 2.8 |
| ス お客様への言葉遣いが気になる。適切であった。 | 4.0 | 4.8↑ | 3.0 | 2.6↓ |
| セ 商品知識が身についている。身についた。 | 3.0 | 4.0↑ | 2.0 | 3.4↑ |
| ソ 生産実習の励みになる。なった。 | 4.8 | 5.0 | 3.6 | 3.8 |

(平成24年度調査対象6名 平成25年度調査対象5名)

ア 思考力・表現力を伸ばす取り組みについて

各学年の対象生徒に対し、活動の前後に意識調査を行い、比較した。平成24年度調査では、質問アで0.8ポイント、質問エで0.5ポイント、平成25年度でも質問エで0.8ポイントの上昇が見られた。これは交代班長制やイベント参加時の聞き取り調査で、人と話す経験を積ませたことにより苦手意識が薄れた結果と思われる。各年度で質問イのポイントが上昇傾向にあったのは、実習記録簿の様式を変更し、毎時間自分の感想や意見を文章化させたことや、千葉県学校農業クラブ連盟研究発表大会参加にあたり記録簿の整理や発表原稿の作成をさせたことが影響していると思われる。各種発表会参加については、まとめや発表技術の向上よりも、一つの大きなことをやり遂げたという自信を持つ機会となった。この様に自己表現の機会を、繰り返し経験させることが、「伝える技術」の向上に繋がっていくと考える。

◎生徒の感想

- ・初対面の人に声をかけるのが緊張した。うまく聞き出せなかった。うまく言えない。
- ・聞き方を工夫して（聞き取り調査が）だんだんできるようになってよかった。
- ・記入してもらったアンケートで、トマトの栽培方法についての質問が難しかった。
- ・研究発表大会に提出する記録簿を作るのが大変だった。分からない内容があった。
- ・パワーポイントを使った発表は失敗したが、だんだんうまくなっていくのが分かった。

イ 関心・意欲を高める取り組みについて

各年度の対象生徒に対し、イベント参加の前後にアンケート調査を行った。平成24年度の結果で質問ケ、サ、ス、セでポイントの顕著な上昇が見られた。これは平成25年度よりも地域イベントへの参加回数が多く、回を重ねるたびに宣伝や販売に関する技術が向上し、「また参加したい。」という興味・関心を引き出せたことによると考える。

◎生徒の感想

- ・接客はアルバイトでなれている人がいたので、まねをしてうまくできた。
- ・商品について聞かれるので、自分達が販売する物の知識が必要。
- ・同窓会や地域の方達が協力してくれているのがわかり、交流できた。出店に誘われた。
- ・服装や言葉遣いをお客様に注意された。自分達で注意し合いながら直した。
- ・交通費を出して欲しい。
- ・休みの日にイベントが行われるので、次の週の登校がづらい。週末は休みたい。

ウ イベント参加後の反省会における生徒評価

(ア) 評価の観点

| 観点 | 評価 | 得点 | 評価基準 |
|----------------|----|----|--|
| 関心 意欲 態度 | A | 5点 | 授業準備、発表や聞く態度、調査が適切で、積極的に活動している。 |
| | B | 3点 | 他者の意見や調査内容に関心を持ち、自分の役割を果たそうと努力している。 |
| | C | 1点 | 授業準備、発表や聞く態度、調査が不適切で、積極的に活動していない。 |
| 思考 判断 表現 | A | 5点 | 他者の意見や結果から建設的な考えで問題点を導き出している。適切な表現で発表している。 |
| | B | 3点 | 自分の考えや結果を表現し、他者の意見や結果を分析し、改善しようと努力している。 |
| | C | 1点 | 他者の意見や調査内容をもとに、自分の考えがもてない。自分の考えや結果を表現できない。 |
| 技能 | A | 5点 | 適切な手法で調査できている。他者の意見や調査結果をまとめ、記録できている。 |
| | B | 3点 | 適切な手法で調査し、他者の意見や調査結果をまとめ記録しようと努力している。 |
| | C | 1点 | 適切な手法で調査できていない。適切に記録やまとめができない。 |
| 知識 理解 | A | 5点 | 他者の意見や調査結果を理解し、正確な調査と考察ができている。 |
| | B | 3点 | 他者の意見や調査結果を理解し、正確に調査するよう努力している。 |
| | C | 1点 | 他者の意見や調査結果を理解できない。適切な調査手法を理解していない。 |

(イ) 評価の実例

| | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 | 得点 | 備考 |
|-----|----------|----------|----|-------|----|----------------------------|
| 生徒A | A | B | B | B | 14 | 他者に助言し、会を進行させている。調査方法整理適切。 |
| 生徒B | A | B | B | A | 26 | 積極的な態度。結果の分析適切、発展性のある意見。 |
| 生徒C | B | C | B | B | 10 | 声小さく、明瞭でない。感想少ない。結果の整理は適切。 |
| 生徒D | B | B | C | B | 10 | 声をかけられなかった。やろうとする意欲は感じる。 |
| 生徒E | B | C | B | C | 8 | 意見や感想が文章になっていない。販売実習はよい。 |

7 研究のまとめ

言語活動は他者との関わりのなかで重要なものであり、その充実とは国語力を基として思考力・表現力といったコミュニケーション能力を高めることである。その点において外部イベントに参加させ、アンケート調査や販売実習を行う授業展開は、思考・判断力・表現力を育む方法のひとつとして有効であると考え。また、自分達の生産物が有識者や地域社会からの評価をうけることは、今後の実習の励みとなるばかりでなく、地域との交流、地域コミュニティの参加により、社会性・道徳心の向上を図ることができる。さらに言語活動を充実させた授業展開は、生徒が主体的に参加する授業を組み立てることに繋がる。

教材選定においては生徒の学習到達度を考慮し、余裕を持って計画し、考える時間を確保するよう助言すること、一定期間で結果が見えやすい比較実験方法を採用することで、問題解決能力を伸ばすことができると感じた。

今回の研究で指導してきた内容は以下に分けられ、この段階を経て思考力・判断力・表現力を育むことができると考える。

- (1) 意見や感想を持たせる学習活動（考える方法 感じる観点 機会と時間の確保）
- (2) 意見や感想を表現させる学習活動（文章化 読む 表現方法の工夫 慣れ 自信を持つ）
- (3) 意見や感想を深め、発展させる学習活動（意見を聞く 理解・比較・発展・まとめ）

言語活動のスキルは一朝一夕に向上するものでなく、繰り返し経験することによって実現されるものだと思う。そのため今後、他科目の授業展開においても言語活動の充実を図るために、対象生徒の学習到達度にあったこのような段階を、年間学習指導計画に適切に位置づけ、計画的・継続的に行っていく必要があると考える。

8 おわりに

今回このような機会を与えていただいたことに感謝いたします。教科書のない本科目について科目の目的を再認識し指導方法について振り返り整理することができました。今回の経験を活かし、今後ともより一層努力していきたいと思ひます。

最後に今回の研究を進めるにあたり御助言いただいた千葉県教育庁教育振興部指導課指導主事 ○○○○先生、千葉県立○○○○高等学校 ○○○○先生、千葉県立○○高等学校長 ○○○○先生をはじめ、教科研究員の先生方ならびに御指導・御協力いただきました関係諸先生方に深く感謝申し上げます。

9 参考文献

- 高等学校学習指導要領解説（文部科学省）
- 高等学校学習指導要領解説 農業編（文部科学省）
- 平成18～24年度高等学校教科研究員研究報告書（千葉県教育庁教育振興部指導課）